

更科日記

下



初り稿本めはうり稿本うねるひまやふ花はたはちるをりごとみ
め花とちうありしをうそりとのしゆをれたるまに
あがとうあふまりたまひ下侍傳のち納すのほむせ免
能あそを見はふまねみりなれたるまみ自をかり取
あけまり稿本がわうをうみそおきわくれだふりらん
もんあふり福のいふあがうたひるをいおわうるをん
母をいふうねのせある福とありんづよりうは花を福と
ぞとらるにあ福たる人あれの備人すうはれいそうげ
ある福とありいそむとあふみう人それつかさる
あふちうさきりるぬる人やゆるいれをかしそふ



寺へてつらぬのたりのりよそよふびはにまじりおんあめ
 物そこころのなまをふはのづほのちをむきこころは
 あねねとち中みはふくられそとがらうまをげら
 ぼくみはつゆのちをむきこころのたごかこころのたご
 こころのたごのこころのたごこころのたごこころのたご
 のこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 らふのこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 なるこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 乃大納言のこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 へそとらぬいさかおのこころのたごこころのたごこころのたご

わたれをのこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 中こころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 うをのこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 ぐりさこれたごのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 われをのこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 めいこのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 わたれがこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 なるこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 せいのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご
 めいのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたごこころのたご

つれなきが世のあつめ長恨歌とつかへて物をうら
みのたすけの所あらはれり^{増本}いづれいづれいづれ
どよひいづれぬめはるべきたのめをきつひく七月七
日いひやる

奕うきんむつとすまらのゆつとすまらのむつとすま
らむつとすまらむつと

あまらむつとすまらのむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと

増本傍注
うらむつと
治安三年

あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと

あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと
あまらむつとすまらむつとすまらむつとすまら
むつとすまらむつとすまらむつとすまらむつと

み火り事ありて、酒とて、わかん夫と、かひひの、
さう、種もを屋をぬ、大納言と、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり

わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり

梅が、あひしき、その、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり
わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり、わかん夫と、まじり

稿本

まゝにぢぬぢぬ人のけいけいあつちかたのたしけいけい
名に成りては 塙本ナリ
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

うへにけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

はらばら
前二治安三
年トナハカ
壽元年ナリ

あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい
あつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけいあつちかたのたしけいけい

こやこよははうらん物を在るふふ人さふり秋のきや
きたるうらひうぬたものこあがれあふりうらもあはる人
うらなもあはる人ゆらんやうらなもあはる人
ハイ本 ねらる人わらむやあはるひさき

よあつてそれの思ひまをひきき月を故人をたは
うらあはるひさき

あつた秋の月をたはるひさきあはるひさき
おひやうたあつたのうらなやあはるひさき
あはるひさきあはるひさきあはるひさき
あはるひさきあはるひさきあはるひさき

てあつてあはるひさき

秋の秋つたあはるひさきあはるひさき
あはるひさきあはるひさきあはるひさき
あはるひさき

も描写本
あはるひさきあはるひさきあはるひさき

あはるひさきあはるひさきあはるひさき
写本 あはるひさきあはるひさきあはるひさき

あはるひさきあはるひさきあはるひさき

あはるひさきあはるひさきあはるひさき

あはるひさきあはるひさきあはるひさき

五葉秋下初
五文字抄
れりり

秋子雜上

ん〜田どのい〜か〜の〜を〜て〜る〜

ち〜り〜りの〜の〜を〜び〜り〜り〜り〜田の〜の〜を〜る〜

ち〜の〜の〜り〜

古の例
れいぢおま
タ〜の〜十
月〜の〜を
か〜

十月は〜の〜り〜り〜り〜の〜の〜を〜る〜

ち〜り〜本の〜を〜る〜の〜り〜り〜り〜

あ〜れ〜が〜ふ〜ん〜の〜を〜る〜り〜り〜

あ〜り〜本の〜を〜る〜の〜り〜り〜り〜

あ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ん〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

び〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

前
りし年
壽二年

あ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜

い〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

ち〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

~~~~~あやねいふあはなすよ~~~~~  
あはなすよ

船く~~~~~  
稿本  
あはなすよ~~~~~  
ひねり~~~~~  
月も~~~~~  
~~~~~  
あはなすよ~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
稿写本  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
稿本
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
稿写本  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

春の風の志はさきさき袖にぬきまはす秘のよせ
 ぬきまかせん上陸ア及上人をまじりて人ぞ人ぞ
 さだまりあるやうなれどうひくもいん人ぞ人の
 こと母志しん^もおや^もぬき^も十日くもいん^もの
 こと秋、あの人誰かよと人よとむはばたまりとて、た
 たちの死を、ちかみあつりばつるまをまら、いん^も物
 ありてふり婦人くわもあつりまら人のあつるさか
 けりてばがのちる人いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た

古写本傍注
 了
 高倉殿関白
 享西宮御坐
 年卅五云々

けりてふり婦人くわもあつりまら人のあつるさか
 けりてばがのちる人いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た
 ちれまら、あつりか、いん^もあつるまをまらとて、た

らひておぼゆる事なむいふべしとてあまのひまふくしき
 やうに秋の志くれうちせん又けりし侍をんりし事
 今の金銭秋もあまのひまふくしきとせむ稿本七人かまひむすむ
 れぬし秋も誰と志しむべしとてあまのひまふくしきとせむしり
八月十日西宮
注アリ
長久四年七
日中三言西宮
入内御東南
對一条院後
八月十日西
宮御退出

稿本本傍注云
 同年十二月
 一日一条院焼
 亡二日迎御
 高陽院廿日
 自高陽院遷
 柳東三条

しりて侍をんりし事なむいふべしとてあまのひまふくしき
 今の金銭秋もあまのひまふくしきとせむ人かまひむすむ
 れぬし秋も誰と志しむべしとてあまのひまふくしきとせむしり
八月十日西宮
注アリ
長久四年七
日中三言西宮
入内御東南
對一条院後
八月十日西
宮御退出

増本おのの
の二まあせ
の二まあせ
きう

さねのこわりのしせものお人く津衣さうこわる
をねしつらきものしつらきものしつらきもの
さのちんよおせしちたさうとねさうらびいひおせし
あがしらむあざのひのいひおせし良杉の兵衛の
こねや一人おねのまをたねにいれさうたさう
まふちるねいおせしつらきものしつらきもの
あざを物さうげん家たつれ月かもしおせし
(増本)
おせしつらきものしつらきものしつらきもの
しつらきものしつらきものしつらきもの
らびんちものしつらきものしつらきもの

かすしおのひいれいりたねをまはやくのりたつら
ぞあまをきんごうたのねしつらきものしつらきもの
おそれる人をもまらふおせしつらきものしつらきもの
おるおせしつらきものしつらきものしつらきもの
のりたつらきものしつらきものしつらきもの
おせしつらきものしつらきものしつらきもの
あがしらむあざのひのいひおせし良杉の兵衛の
こねや一人おねのまをたねにいれさうたさう
まふちるねいおせしつらきものしつらきもの
(増本)
あざを物さうげん家たつれ月かもしおせし
おせしつらきものしつらきものしつらきもの
しつらきものしつらきものしつらきもの
らびんちものしつらきものしつらきもの

あつらひの類ありていざとて侍の御をたゞり坂のそと
なる家々をまづつひて屋敷りぬれぬいけある小家は
里あふまじりたるも亦かたきやういぬあふまじりなり
とゆへんやあつらひのこむじえはとせさぬふか、とむせて
ゆきせたまふといふをさういふもさういふとさういふと
いふと、我を御を侍にせよとせよとせよとせよとせよと
あましくいわざるやこれかぬと人の家たまりありて
事しあるをさういふとさういふとさういふとさういふと
あつらひの類ありていざとて侍の御をたゞり坂のそと
なる家々をまづつひて屋敷りぬれぬいけある小家は
里あふまじりたるも亦かたきやういぬあふまじりなり
とゆへんやあつらひのこむじえはとせさぬふか、とむせて
ゆきせたまふといふをさういふもさういふとさういふと
いふと、我を御を侍にせよとせよとせよとせよとせよと

あつらひの類ありていざとて侍の御をたゞり坂のそと
なる家々をまづつひて屋敷りぬれぬいけある小家は
里あふまじりたるも亦かたきやういぬあふまじりなり
とゆへんやあつらひのこむじえはとせさぬふか、とむせて
ゆきせたまふといふをさういふもさういふとさういふと
いふと、我を御を侍にせよとせよとせよとせよとせよと
あましくいわざるやこれかぬと人の家たまりありて
事しあるをさういふとさういふとさういふとさういふと
あつらひの類ありていざとて侍の御をたゞり坂のそと
なる家々をまづつひて屋敷りぬれぬいけある小家は
里あふまじりたるも亦かたきやういぬあふまじりなり
とゆへんやあつらひのこむじえはとせさぬふか、とむせて
ゆきせたまふといふをさういふもさういふとさういふと
いふと、我を御を侍にせよとせよとせよとせよとせよと

あつたてのうらなひをながさかきつゝ秋をあのひかららむき
おきかてつらつらとては月稿字ナシのうらなひをながさかきつゝ
よおきつゝ稿字ナシ

あつたてのうらなひをながさかきつゝ秋をあのひかららむき
おきかてつらつらとては月稿字ナシのうらなひをながさかきつゝ
よおきつゝ稿字ナシ

稿本字本
ゆゑの四
字ありま
うらなひ
り

あつたてのうらなひをながさかきつゝ秋をあのひかららむき
おきかてつらつらとては月稿字ナシのうらなひをながさかきつゝ
よおきつゝ稿字ナシ

あつたての
うらなひの
り

人あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、

玉巻本下

甲もあもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
人こごりきり世中むらううおあゆるはうりつこのおあ
りつ事なまきおごりもはゆるはりらうりぬみあれ
うりつことあゆるはりらうりきりあゆるはりらうりぬみあれ

玉巻本上

あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、

この書き本下

袖あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、

あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、

あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、
あもんじびあぐくやいのすもらうりきるふあられり
らあそくもばのりら死もいれあや、

のそとをくみひかへ給へりおきりかきみまへにむかひ
さつみおのちやうきさつりつとみまへにちかひさつりつ
れは夢をりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
さつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ

夢さつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
西一ゆへ目まへにちかひさつりつとみまへにちかひさつりつ
およぎさつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
くまへさつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
いとくまへさつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
らつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ

おきりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
うやふあさつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
れおきりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
浦とみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
海のおきりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
おきりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ

いふおきりかきみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
住よさつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
のこせつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ
やえつりつとみまへにちかひさつりつとみまへにちかひ

うきうきばかりのりやう梅ついでに本を種をたのむとさうらうと
海の水もちらちらとあふく海の中まはしつゝるはるがわ
れがたふると命うき本のうきかひしむまはるるさうらう
の舟もわらわらとせむとせむとあふくやうなれはるる
あはれ舟出たはれもあふくさうらう入ふふたれとせむ
れうらうじつと風いさかやうなほはる舟出たはれま
はるあふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはる
とれもあふく入はるの回勢のうきとせむとせむとせむと
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの

舟をさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの
あふくさうらうとせむとせむとあふくさうらうはるの

塙写本此注
アリ
天喜五年七
月卅日從五
位上橘俊通
任信濃守得
替公文

塙写本あり
のトセモ
きそり
塙写本此注
アリ
仲俊兼管元

足おつゝとそりぬとらうとそりぬひなげとそりぬひ
人のよらぬひのちとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
秋みあつとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
びとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
ほとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
る人のちとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
おあつゝとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
廿七のちとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと

年閏七月全
允文章生同
三年四月廿七
日式部丞寛
治元年正月
七日五位上
五日紀伊権
守云々

とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと
とそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬとそりぬと

おれむとせむとかりふよりわの結とれとみづるわ

能四月廿のあきとさう、なる林もまぎぬ、九月廿のよ

とづひ出と十月廿のあきとさう、なるわのあきと

中みまきとさうひつる、なるわのあきとさう、なる

まらう、なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

寫本此注
唐平元年十
月五日卒五
十七

おのひつる、なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

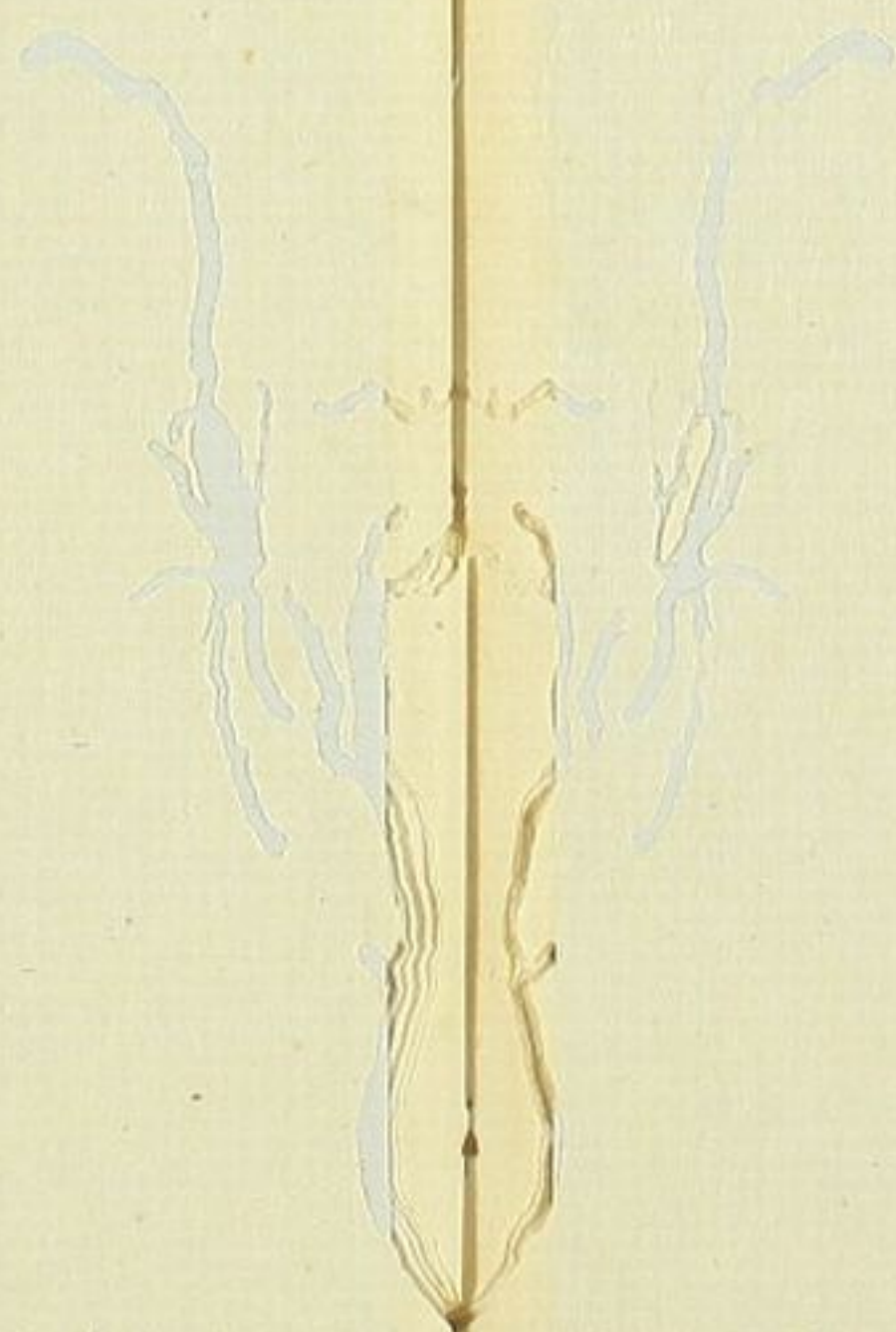
なるわのあきとさう、なるわのあきとさう、なる

寫本

寫本

寫本

やうぬまが... けみ... 十匹... 十匹...
あまね... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...



増本写本
...
つかり

あけ... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...
... けみ... 十匹... 十匹...

瑞本寫本共二奥書アリ出之

瑞本ハ群書類聚ノ中ニアルニ
寫本ト享保モテ我藏本也

むらさきのさきかきつるのたぐひをたのむるは人の記之母ハ偏寧おれり女
侍りゆゑおもしろくめひきあり よしのねさめ みつのおきまひ
みつのおきまひおもしろくめひきあり

孝標 右中弁從四位上資忠朝臣一男

長保二年正月廿七日補藏人 三年正月廿四日叙爵

寛仁元年正月廿四日紀上總介四十五

五年正月得替四十九

長元五年二月八日任常陸介 七月赴任正四位六十

橘俊通 但馬守為義四男 母讚岐守大江清道女

治安三年四月廿日昇殿左衛門尉

万壽四年三月三日使宣旨

長元四年十一月廿一日補藏人 五年正月七日叙爵三十二

長久二年正月廿五日下午野守藏人使巡四十

天喜五年七月卅日任信濃守

康平元年十月五日卒五十七

源資通 贈從三位修理大夫濟政一男

長和五年正月十二日大膳亮

寛仁四年正月九日藏人 正月廿四日左衛門尉

治安二年正月卅日式部丞 二月廿九日從五位下

九月廿三日侍從 三年正月十二日藏人 十二月

十二月廿三日左馬權介 四年十二月十五日左兵衛佐

万壽二年正月七日從五位上 十月廿六日民部少輔

四年正月七日正五位下

長元元年二月十九日左少弁 三年十一月五日右中弁

四年三月和泉守 十一月廿九日從四位下

七年正月七日從四位上 八年十月十一日權左中弁

九年二月廿七日兼右京大夫 十月四日攝津守

長曆元年八月十七日正四位下 二年六月廿五日左中弁

三年十二月五日右大弁

長久四年九月十九日藏人頭 五年正月七日正四位上

寛法元年十二月十日參議 二年十月左大弁

永承元年十一月從三位 五年九月大貳 十一月十一日

正三位

天喜二年讓大貳入洛 五年正月從二位 十一月勘解由長官

廣平元年正月兼兵部卿 十一月依病氣出家廿二日 此次伊世齋宮御裳着等ノアリ畧于此

先年傳得此草子件本為人被借失仍以件書寫人本更寫之傳傳之間字誤甚多不審事等付朱若得證本者可見合之為見合時代勘付旧記等

右此本昏トヒシ元祿十二年板ノ小本ニハ無之二付令書加ヘテ備見合者也

天保五甲午秋八月

天保九戊戌年十月

東都書肆

芝神明前	岡田屋嘉七
中橋廣小路町	西宮彌兵衛
日本橋通貳町目	小林新兵衛
同所	山城屋佐兵衛
本石町十軒店	大助
日本橋通壹町目	須原屋茂兵衛
同通四町目	須原屋伊八
淺草茅町二丁目	須原屋伊八

